

地域づくり計画策定の手引き



平成 30 年 4 月

氷見市

◆目次◆

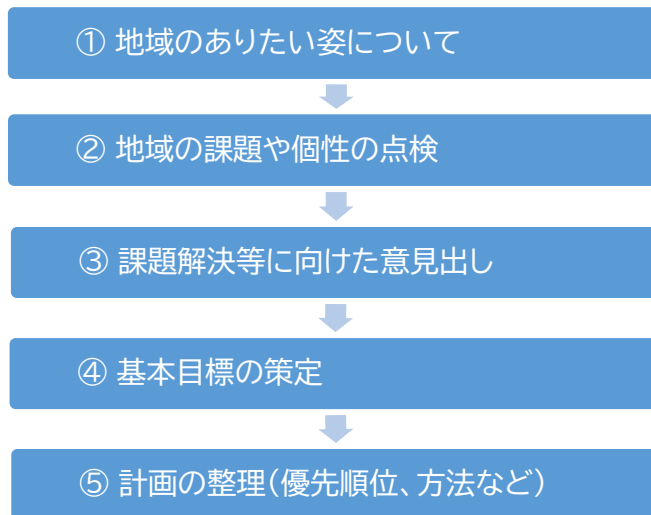
- 1 地域づくり計画策定の必要性 P 2
- 2 地域づくり計画策定の流れ P 2
- 3 市の支援 P 4
- 4 地域づくり計画の構成例 P 5
- 5 参考資料 P 7

1 地域づくり計画策定の必要性について

地域づくり協議会を設立し、地域の身近な課題解決に向けて、地域が一体となって取り組むためには、住民が共通の目標をもち、その実現に向けた取り組みを計画的に実施することが求められます。住民が、その活動の目標や方向性、実現に向けた取り組みの優先順位などを共有できるように地域づくり計画を策定することが必要です。

2 地域づくり計画策定の流れ

※あくまでも一つの例です。



①地域のありたい姿を考えます。

地域づくりの目標となるものです。

例)「人とひととがつながり、生き活きとした、支えあう●●●」

②地域の課題や個性の点検

ア 暮らしの点検

- ・地域が取り組んでいる活動、事業に対する「重要度」と「満足度」の評価
- ・困っていること、解決したいこと（もの、場所も含む。）
- ・大切にしたいこと、活かしたいこと（もの、場所、動きなども含む。）

イ 地域に「あるもの」探し

- ・知恵、歴史、文化、風景、食、人、もの、お祭り、行事、言い伝え、昔話…

③課題解決等に向けた意見出し

地域が目指す「ありたい姿」に向けて、地域の課題を解決し、暮らしをよくするために必要だと思うことを出し合います。

ア この地域の課題を解決し、暮らしを良くする取り組み

イ この地域の個性をさらに伸ばして暮らしを良くする取り組み

④基本目標の策定

地域のありたい姿に向けた取り組みを進める上での基本的な方針となる基本目標を決めます。これまで出された意見を整理し、もっとも重視したいことをもとに考えましょう。

⇒基本目標は、誰にでもわかりやすい言葉で表現しましょう。

例：「安心して暮らせる地域づくり」

⑤計画の整理（優先順位、方法など）

ア 話合いで出された取り組むべきことや取り組みたいことを一気に実現することは難しい場合もあります。このため、取り組みの必要性や実現可能性などから、優先順位を決めていきましょう。

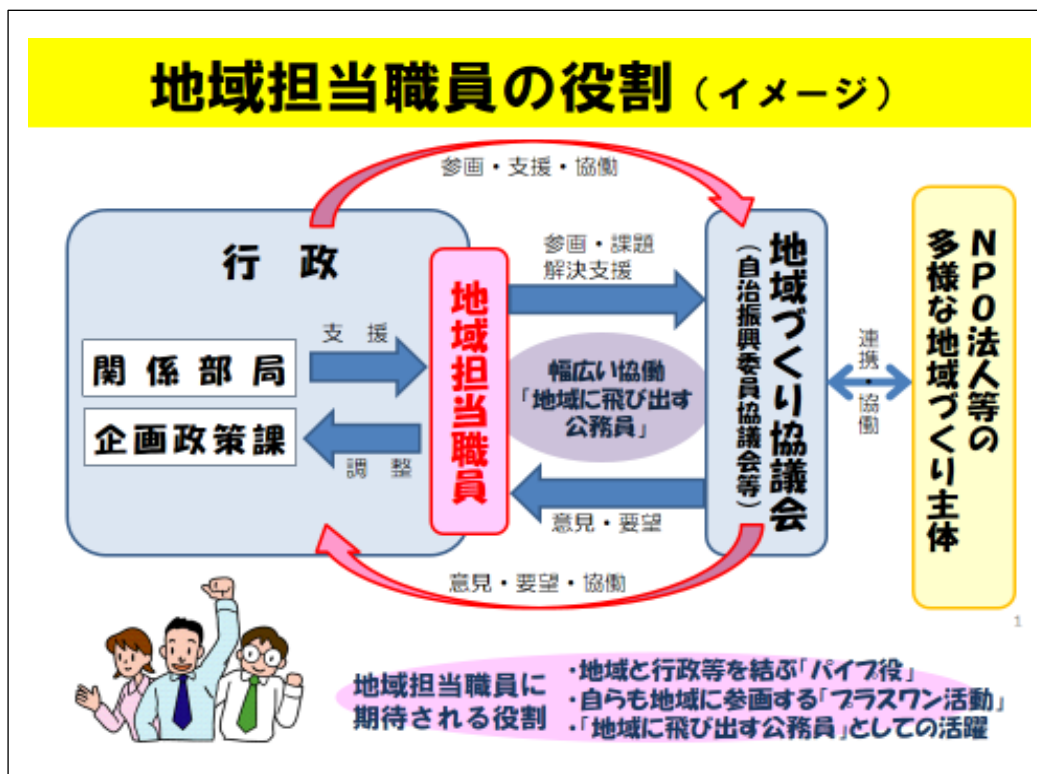
イ いつまでに、誰が（活動の主体）、どんな方法で取り組みを進めるかを決めていきましょう。短期（2年間で）、中期（5年間で）、長期（10年間で）に分けて目標を設定すると整理しやすくなります。

3 市の支援

(1) 地域担当職員

地域住民と行政がまちづくりの対等なパートナーとして、地域課題の解決を図り地域の発展と地域力の向上を図ることを目的に、平成24年7月から、旧小学校校区単位21地区に2～3名ずつ市職員を地域担当職員として任命しています。

地域担当職員は、協議会や自治振興委員からの要請により、会議等に出席し、情報提供や情報収集、助言などを行い、地域づくりを支援します。



4 地域づくり計画書の構成例

※あくまでも一つの例です。

1 地域の沿革や地域づくり協議会発足の経緯

- (1) 地勢や沿革、歴史
- (2) 地域づくり協議会発足の経緯

2 地域の現状

- (1) 人口、世帯数の推移
- (2) アンケート結果・分析

3 計画

(1) 地域づくりの目標 「*****」

基本目標① ●●●な地域づくり

- ・実施計画①
- ・実施計画②
- ・実施計画③

基本目標② ●●●な地域づくり

- ・実施計画①
- ・実施計画②
- ・実施計画③

基本目標③ ●●●な地域づくり

- ・実施計画①
- ・実施計画②

(2) 基本目標① ●●●な地域づくり

・実施計画①

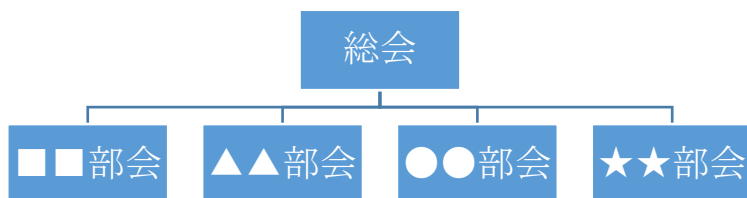
実施期間	事業名	内容
短期	*****	
長期	*****	
中期	*****	

・実施計画②

実施期間	事業名	内容
長期	*****	
長期	*****	

4 組織及び役員などの参考資料

(1) 組織



機関	構成員・団体	活動内容
総会	代議員	・
■■部会	自治振興委員・公民館	・ ・
▲▲部会	民生児童委員 地区社協 健康ボランティア	・ ・
●●部会	青年団 老人会 婦人会	・ ・
★★部会	消防分団、自主防災会	・ ・

(2) 役員

役職	氏名	備考
会長	* * * * *	
副会長	* * * * *	
理事	* * * * *	
理事	* * * * *	
監事	* * * * *	

参考資料：合意形成に役立つ手法

1 アンケート調査

地域づくりに若い世代が参加しない原因のひとつは、自分たちの困りごと・希望や感じていることが、地域の判断や実践に取り入れられていないからだと思います。世帯主だけでなく、中高生以上の若い世代も含む方を対象としたアンケートを行うことを勧めます。

また、少人数（2～3名）に、その地域の歴史や地形、ご本人の生き様など、時間をかけてじっくり聞き取りすることも重要です。



※写真はイメージです。

2 ワークショップ

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめていきます。ファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に発言・作業をする環境を整えます。



※写真はイメージです。

3 まちあるき（あるもの探し）

何気なく歩いていた道にも、歴史やエピソードがあることに気づくことで、日々暮らしている地域の味わいが深くなります。

また、地域住民以外の方も加わると新たな発見があるかもしれません。



※写真はイメージです。

4 地図上への記録

話し合った内容や、まちあるきで得た情報を地図上に落とし込めば、地域の魅力分布などが視覚的に分かりやすくなります。



※写真はイメージです。

担当：氷見市企画政策部地域振興課

<電 話>74-8013

<FAX>74-8255

<メール>chiikishinkou@city.himi.lg.jp

